

大阪歴史博物館年報

平成 28 年度



大阪歴史博物館

平成 29 年 6 月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	5
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	8
教育普及事業	9
学校連携事業	11
ボランティア関連事業	12
連携事業・「大阪歴史博物館友の会」との連携	13
文化庁補助金による多言語化の取り組み	14
広報宣伝活動	14
刊行物	14
調査研究活動	15
平成 28 年度入場者数	20
受嘱・派遣・視察	20
条例と規則	22
運営組織	24
退職学芸員の紹介	25

はじめに

大阪市は、平成29年（2017）3月に「博物館施設の地方独立行政法人化に向けた基本プラン」を示し、平成31年度から経営形態を変更する方向で準備が進められることになった。これにより、博物館運営のありかたを改めて議論していくことが必要となるが、よりよい展示をめざし、来館される皆さまに質の高いサービスを提供するという基本ミッションには何ら変わりはなく、引き続き大切にしていきたい。

平成28年度（2016）の外国人入館者は、前年度に引きつづき高水準で推移した。外国語リーフレットの取得数から推して、常設展の有料入館者数の約4割強が外国語使用者であるとみられる。この事態に対して、当館では、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の中核館として補助金を活用し、さまざまな外国語対応を行った。主には、これまでの英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語に加えて、フランス語・スペイン語・タイ語・アラビア語のリーフレットを作成し、ホームページの外国語ページや外国語対応ボランティアツールの充実をはかった。

この事業は、平成29年度にも継続することが決まっているので、さらに取り組みを進めていきたい。一方、この傾向がどこまで続くのか、その動向を注意深く見守り、変化のきざしが現れたら、迅速に対応して行かねばならないだろう。

平成28年度末をもって、伊藤廣之・伊藤純の両氏が定年退職された。これを機に、本号から、退職された学芸員を顕彰するための欄を新たに設けることとなった。長年の労苦に敬意を表するためである。

館長 栄原 永遠男

展観事業

常設展示

● 10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

● 9階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大阪の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

● 8階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。

● 7階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、実寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

● 難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。

● タイムカプセル EXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、これと全く同じものを展示している。

常設展示更新の状況

階	コーナー	内容	展示期間
10	前期難波宮	前期難波宮「朱雀門」の焼けた柱穴（はぎ取り）	6月 8日～
10	前期難波宮	小型鴟尾、丸瓦	3月 1日～
10	難波京の風景	祭祀遺物	10月 5日～
10	特設展示コーナー	長原七ノ坪古墳に見える百済と新羅	6月15日～ 9月19日
10	特設展示コーナー	古墳時代中期、長原遺跡のものづくり	9月21日～11月28日
10	特設展示コーナー	後期難波宮でみつかった奈良時代の柱根	11月30日～ 2月20日
10	特設展示コーナー	なにわの油火—古代～近世の灯明皿—	2月22日～
9	天下一の都市	豊臣期大坂の武家屋敷の家紋瓦	2月 7日～
9	大坂三郷	大坂城代の起請文	8月31日～
9	まちの生活	川御座船図	3月30日～ 5月16日
9	まちの生活	間重富関係	7月27日～ 9月 5日
9	まちの生活	住吉の本地（中巻）	9月 7日～10月 3日
9	まちの生活	ちょうちょう踊図巻	10月 5日～10月31日
9	まちの生活	住吉の本地（下巻）	11月 2日～ 3月20日
9	まちの生活	大坂四条派の画帖（「花卉図画冊 西山完瑛・西山芳園筆」ほか）	3月22日～
9	町人の文化	晩秋の掛軸（「小督局図 大岡春卜筆」ほか）	11月 2日～12月12日
9	町人の文化	春の掛軸（「住吉風景図 森関山筆」ほか）	12月14日～
9	大坂の幕末・維新	安政南海地震と安政江戸地震	12月14日～ 3月27日
7	近代都市の建設	村野藤吾と心斎橋プランタン	4月13日～ 8月 1日
7	近代都市の建設	大阪朝日ビル（朝日ビルディング）の建築	10月 5日～
7	地域のなかの戦争	戊辰戦争絵巻	11月23日～
7	美術工芸	切嵌細工	昨年度～ 5月16日
7	美術工芸	藪 明山	5月18日～12月26日
7	美術工芸	焼物にみる大阪風景	1月 5日～ 4月 3日
7	美術工芸	阪井俊政の鐺	6月 1日～
7	祭り与人々	玉出のだいがく	6月22日～ 8月22日
7	メディアと流行	泉州の新聞	10月12日～11月28日
7	メディアと流行	大阪相撲の横綱 八陣信蔵	3月 8日～
7	引札と広告	駅弁掛け紙と商工名鑑	7月 6日～ 9月19日
7	引札と広告	諸商の引札	9月21日～12月12日
7	引札と広告	新年の引札	12月14日～ 1月23日
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司チラシ	1月25日～ 2月20日
7	引札と広告	諸商の引札	2月22日～
7	鴻池家の生活用具	鴻池家のガラス器	6月29日～12月19日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家の火鉢類	12月21日～ 3月27日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家の器具類	3月29日～
7	写真パネルコーナー	写真パネル展「村野藤吾の建築」	4月13日～
7	映像コーナー	黒部峡谷への旅行	10月26日～12月12日
7	映像コーナー	高津宮の初詣	12月14日～ 3月13日
7	映像コーナー	戦前のコウノトリ	3月15日～

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●辛基秀（シン ギス）コレクション

朝鮮通信使と李朝の絵画

会 期：平成 28 年 2 月 17 日～ 4 月 11 日

出 品 数：16 件

担 当：大澤研一・岩佐伸一

（詳細は平成 27 年度年報を参照）

●平成 24・25・26 年度 大阪市の新指定文化財

会 期：平成 28 年 4 月 13 日～ 6 月 13 日

出 品 数：約 40 点

担 当：伊藤 純

大阪市では、平成 11 年に大阪市文化財保護条例を施行した。今回の展覧会では、平成 24～26 年度に新たに指定された文化財を実物資料と写真パネルによって展示し、大阪の歴史と文化の広がりや奥深さを紹介した。

おもな展示資料は、木造地藏菩薩立像（源聖寺蔵）、佐賀藩大坂蔵屋敷関係史料（日本生命保険相互会社蔵）、慧光寺真宗関係史料（慧光寺蔵）、豊臣期金箔押龍面鱗瓦（大阪市蔵）など。

関連行事として四天王寺執事の南谷恵敬氏による記念講演会「庚申信仰とその美術」を開催し、また学芸員による展示解説を4月30日、5月21日、6月11日に開催した。

●郷土建築へのまなざしと日本建築協会

会 期：平成28年6月15日～8月1日

出 品 数：40件

担 当：酒井一光

後 援：(一社)日本建築協会

大正後期から昭和初期にかけて、大阪では都市開発や建設活動が活発化した。こうした動向には、大正6年(1917)に大阪で設立された日本建築協会が大きな役割を果たした。開発行為は同時に、歴史的建造物の建て替えや都市景観の急激な変化をもたらした。建て替えられつつあった江戸時代以来の古い町家や明治初年の洋風建築などを「郷土建築」と呼び、それらの保存を提唱し、記録する動きが日本建築協会会誌『建築と社会』を舞台に展開された。本展覧会では、大正、昭和の都市開発とその陰で姿を消そうとする「郷土建築」へのまなざしを、残された記録やスケッチなどから紹介した。おもな展示品は、「船場小学校の図」(西清手画)、「造幣局古図面」(写)より泉布観立面図、「鞆下ノ橋より」スケッチ(本間乙彦画)など(いずれも本館蔵)。7月9日にシンポジウム「大阪の建築100年をふりかえる」を、6月18日、7月16日に学芸員による展示解説を実施した。

●蔵出し名品展2016

会 期：平成28年8月3日～10月3日

出 品 数：23件

担 当：松尾信裕

大阪歴史博物館が所蔵する歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の各分野から、普段はあまり展示する機会のない館蔵の優品を、いくつかの分野から選りすぐり、大阪歴史博物館の幅広いコレクションを展示した。

歴史分野からは「豊臣秀吉朱印状(天正13年(1585)4月2日付)をはじめとして「徳川家康朱印状 慶長5年(1600)5月25日付」、「伊達政宗起請文 慶長4年(1599)4月5日付」など戦国大名の書状を、考古分野からは銅製鍍銀経筒(伝金峰山経塚出土)や陶製金箔押経筒(伝四王子山経塚出土)(いずれも前田善衛氏寄贈)や瓦経など中世の信仰を示す資料群、美術分野からは六曲四隻の「大阪城四季図屏風 直原玉青筆」のうち夏図と秋図や、中国青磁壺(酒会壺)や尾形乾山作の絵替角皿五客(前田善衛氏寄贈)を展示した。

会期中の8月20日・9月3日・9月10日に展示解説を行った。

●関西大学創立130周年記念 関西大学蔵本山コレクションの精華

会 期：平成28年10月5日～11月14日

出 品 数：約100件

担 当：船越幹央、伊藤 純

共 催：関西大学博物館

関西大学博物館の中核コレクションである本山コレク

ションは、明治後期から昭和初期まで大阪毎日新聞社長を務めた本山彦一(1853～1932)が収集したもので、19,000点に及ぶ考古学資料からなる。昭和7年(1932)に「本山考古室」に収蔵展示され、戦後、関西大学に移管された。以後、関西大学博物館で展示公開され、平成23年(2011)には登録有形文化財(美術工芸部門考古資料)に登録された。これまで学外では個別にしか展示されることのなかった本山コレクションを代表する考古学資料が、初めて学外で一堂に展示された。特に、重要文化財・重要美術品に指定された資料を中心に公開し、本山彦一と末永雅雄、関西大学の考古学研究についても展示した。

関連行事として、関西大学ミュージアム講座「本山コレクションの精華－本山彦一と大阪、関西大学－」を開催し(10月9日・10月23日・11月6日)、展示解説を10月15日・10月29日・11月12日に実施した。また関連展示として、関西大学博物館(吹田市)で「関西大学のちから～伝統への自信、未来への考動～」を開催した。

●新発見!なにわの考古学2016

会 期：平成28年11月16日～12月26日

出 品 数：約200点

担 当：松本百合子

共 催：(公財)大阪市博物館協会 大阪文化財研究所

本年度は、平成27年度の大阪文化財研究所による大阪市内の発掘調査速報である「第Ⅰ部 平成27年度の新発見」と、特別展「真田丸」で注目された大坂城について、過去の調査成果をまとめた「第Ⅱ部 豊臣期の大坂城」の2部構成とした。

第Ⅰ部は、弥生時代末期の土器群(中央区日本橋遺跡)、古墳時代の土器群(北区長柄西遺跡B地点)、室町時代の瓦(天王寺区茶臼山遺跡)や硯・筭(淀川区宮原遺跡)、江戸時代の陶磁器(北区天神橋遺跡)、明治時代の大坂鎮台関連遺物(中央区大坂城跡)などの成果である。第Ⅱ部は豊臣期大坂城の陶磁器など考古資料と館蔵の絵画資料を合わせ展示した。

関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2016」を11月26日に開催し、展示解説を11月19日、12月10・17日に実施した。

●名刀の面影－刀絵図と日本刀の美－

会 期：平成29年1月5日～2月27日

出 品 数：約30点

担 当：内藤直子

近年の刀剣ブームでは、作品そのものの鑑賞に加え、作品をイメージし、その背景に思いを巡らせるという新しい楽しみ方が広がっている。今回の展示では、そんな楽しみ方を念頭に、重要文化財を含む名刀そのもののほかに、刀絵図や絵巻物、刀職者の製作に関する資料等を展示し、多方面から日本刀の魅力を紹介した。

刀絵図は、写真が無かった時代に当時の名刀の情報を伝えるために記されたもので、現在、展示等で公開される機会がきわめて少ない名刀も描かれている。本展では、実物作品に加え、描かれた名刀、日本刀の魅力をより深く理解するための刀身切断面ピースや鞘塗工程等も展示

し、多様で新しい日本刀の楽しみ方を呈示した。

おもな展示品は、「刀絵図（埋忠本写し）」（個人蔵）、
「刀 和泉守兼定 / 大永二年二月 源親忠」（館蔵：前田
善衛氏寄贈）、刀剣製作工程（館蔵）など。展示解説を
1月15日に実施した。

●近代大阪と名望家（めいぼうか）

会 期：平成29年3月1日～4月24日

出 品 数：97点

担 当：飯田直樹、島崎未央（インターンシップ）

明治から昭和戦前にかけての大阪では、市政や小学校
の運営などで地域の有力者である名望家たちが重要な役
割を果たしていた。そのような名望家の家には、彼らが
関わった事業や団体に関する様々な資料が残されている
ことがある。この特集展示では、野村吉兵衛（1875-
1934）、池永恒太郎（1878-1962）、田中半治郎（1882-
1930）、岡本忠一（1873-1942）、熊田兵蔵（1870-
1923）という5人の名望家を取りあげて、その家に残さ
れた資料を紹介した。ほぼ同世代の彼らは、日露戦争や
米騒動といった共通の体験をしていたが、出自や職業な
どが異なるため、名望家としての行動や役割は微妙に異
なっており、残された資料の種類や残り方も異なってい
た。このような名望家の共通性や差異に注意しながら、
近代大阪の名望家の実像や彼らが暮らした地域社会の実
情に迫った。おもな展示品には、兵士像（池永敏子氏・
池永節子氏寄贈）、地所家屋譲売買確証綴込（野村吉夫
氏寄贈）、骨屋町市場平面図（岡本敦司氏寄贈）などが
ある（いずれも本館蔵）。関連行事として3月4日・11日、
4月1日・8日に展示解説を実施した。

特別企画展

●都市大阪の起源をさぐる

難波宮前夜の王権と都市

会 期：平成28年7月16日～
8月29日

出 品 数：約200点

担 当：杉本厚典、加藤俊吾、
伊藤廣之

主 催：大阪歴史博物館、(公財)

大阪市博物館協会 大阪文化財研究所

『日本書紀』には、難波宮に先立つ6世紀から7世紀
前葉にかけて、難波に政治・外交の拠点が置かれていた
ことが記される。本展では当時、難波の中心地であった
上町台地北部の状況を、考古資料と写真パネル等をもと
に紹介した。前半では、5世紀に上町台地北部に設けら
れた国内最大級の倉庫群と、河内湖・大阪湾岸に広く展
開した多様な生産について展示した。後半では、上町台
地の地形を復元したベースマップと関連付けて考古資料
を陳列することで、6世紀から7世紀前半にかけて、大
型建物群・倉庫群からなる中枢部が台地の平坦部に生ま
れ、それらを取り囲んで、ガラス製品や鉄製品等の先端
技術を駆使した手工業生産の場が広がる様子を視覚的に
示した。

◇おもな展示資料

・ガラス小玉鋳型 古墳時代中期から飛鳥時代 大阪

文化財研究所保管

- ・難波宮下層遺跡出土土器 古墳時代後期から飛鳥時
代 大阪文化財研究所保管
- ・難波にもたらされた百濟土器 古墳時代後期から飛
鳥時代 大阪文化財研究所保管

◇関連イベント

- ・プレイベント 館長講演会「難波屯倉と古代王権-
難波長柄豊碕宮の前夜-」栄原永遠男 6月25日
- ・講演会「古墳時代中期のものづくりと王権」杉本厚
典 「難波屯倉と上町台地北部における都市の形成」
南秀雄（大阪文化財研究所所長）7月30日
- ・展示解説 7月23日、8月7日・27日

●コレクションの愉しみ - 印判手の皿とアジアの凧 -

会 期：平成28年12月7日～

平成29年2月13日

出 品 数：湯浅夫妻印判手コレク
ション：約1,000点

木村薫凧コレクション：
約300点

担 当：中野朋子（印判手の皿）、
伊藤廣之（アジアの凧）

村元健一、大澤研一

主 催：大阪歴史博物館

大阪ゆかりのコレクターが精力的に収集した2つのコ
レクションの展示を通じて、収集の愉しみとその学術的
背景を提示した。「印判手の皿」は湯浅哲夫・湯浅けい
子夫妻が30余年をかけて、「アジアの凧」は木村薫氏が
40年にわたって収集したコレクションである。

◇関連イベント

- ・展示解説

「印判手の皿」平成28年12月10日、平成29年1
月14日

「アジアの凧」平成28年12月18日、平成29年2
月5日

特別展

●第59回特別展 大阪歴史博物館開館15周年記念

近代大阪職人（アルチザン）図鑑

—ものづくりのものがたり—

会 期：平成28年4月29日～6月20日

開館日数：46日間

入場者数：24,699人

出 品 数：約170件

図 録：A4判変形、152頁

担 当：内藤直子、八木滋、
中野朋子、豆谷浩之

主 催：大阪歴史博物館

特別協力：清水三年坂美術館

企画協力：公益財団法人阪急文化
財団 逸翁美術館

明治維新以後の工芸界は東京を中心に発展を遂げ、国
内外で高い評価を受けるようになる一方、中央から離れた
大阪での作り手や作品の中には、十分に世に知られな
いままのものが少なくない。



平成 28 年は、大阪歴史博物館が開館してから 15 年目の節目であるが、その間にも数多くの大阪の職人“アルチザン”の存在や作品が明らかになっている。これらは当館の前身たる大阪市立博物館の 40 年に大阪歴史博物館での 15 年を加えた、55 年間の調査・収集の積み重ねによるものにはかならない。

本展では、これまでの当館活動の中で見いだされた初公開作品を含む「忘れられた大阪の工芸」約 170 件の展示を通じ、美術か美術で無いのかにとらわれず幅広いものづくりの見地から、大阪の職人“アルチザン”を再評価した。

◇おまな展示資料

- 冬瓜大香炉 村上盛之作 清水三年坂美術館蔵
- 龍自在置物 穂山竹林斎作 清水三年坂美術館蔵
- 刀 銘 明治三十一年十一月日日本美術協会大阪支会技芸員 月山貞一
依日本美術協会大阪支会嘱謹鍛之 東京国立博物館蔵
- ハンネラ写し茶器 三好木屑作
公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館蔵

◇関連イベント

- 記念講演会「自在置物の魅力」村田理如氏（清水三年坂美術館館長）5月7日
- 展示解説 5月8日、6月4日

●第 60 回特別展

2016 年 NHK 大河ドラマ特別展 真田丸

会 期：平成 28 年 9 月 17 日～11 月 6 日

開館日数：44 日

入場者数：84,072 名

出品数：177 点

図 録：A4 変形判、248 頁

担 当：大澤研一、木土博成、
内藤直子、松尾信裕

主 催：大阪歴史博物館、
NHK 大阪放送局、
NHK プラネット近畿、
読売新聞社

協 賛：日本写真印刷、ハウス食品グループ本社、
みずほ銀行

特別協力：大阪城天守閣、真田宝物館（長野市）

本展は、2016 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」の主人公・真田信繁（幸村）にスポットをあて、真田家の動向とからめてその生涯を紹介した。信繁は動乱の戦国時代のなか、めまぐるしく主君を変える真田家にあって、父の昌幸・兄の信幸（信之）のもとで成長し、豊臣家と徳川家の最終決戦「大坂の陣」では難攻不落の真田丸を築き、豊臣家に忠誠を尽くした。そして、夏の陣では寡兵ながらも果敢に徳川方を攻め、その奮戦ぶりは家康に死を覚悟させるほどだったと伝えられた。

本展では新発見・展示初公開の真田丸図をはじめ、信繁ゆかりの品や歴史資料などを公開し、多くの関心を集めた。



◇関連イベント

- オープニングイベント 草刈正雄氏・浦上晟周氏（俳優）9月17日
- 「真田幸村三変化」（講談「難波戦記」、落語「真田小僧」、新作能「真田幸村」）9月18日
- 展示見どころ解説 9月24日、10月10日、10月22日
- 真田丸なりきり撮影会 9月24日・25日、10月1日・2日・8日・9日・10日
- 講演会 高橋圭一氏（大阪大谷大学教授）「歴史の信繁、文学・芸能の幸村」9月25日、長屋隆幸氏（名城大学講師）「慶長 19 年 12 月における真田丸の攻防について—攻撃側の視点から」10月16日
- 講談「難波戦記」10月30日

資料収集

平成 28 年度は、寄贈によって新たに 1,326 件 2,078 点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成 28 年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	344	0	0	344
美術	1,183	0	0	1,183
考古	0	0	0	0
民俗	292	0	0	292
芸能	259	0	0	259
建築	0	0	0	0
	2,078	0	0	2,078

●館蔵品総点数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	78,223	9,143	86	87,452
美術	6,728	1,648	3	8,379
考古	7,025	4,765	6,178	17,968
民俗	4,832	2,485	2	7,319
芸能	10,680	1,029	3	11,712
建築	5,738	0	27	5,765
	113,226	19,070	6,299	138,595

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を 6 月、9 月、2 月の計 3 回実施した。また、6 月から 7 月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

●文楽人形髪見本および髪師・床山関係資料

平成 名越恵美子氏寄贈
文楽人形髪師・床山として活躍され、2002年に国の選定保存技術保持者となった名越昭司氏(2016年没)が製作し、文楽の髪見本として残した飾り髪および髪師・床山道具・材料等と名越氏の関係資料 209点。

写真は文楽人形髪見本鉢物括り下げ。



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇岩鼻通明氏寄贈資料 地券	58通
◇高谷直美氏寄贈資料 大阪行幸記念御写真帖	1冊
◇中西俊之氏寄贈資料 大阪環状線開通寺田町駅時刻表	1部
◇藤枝宏治氏寄贈資料 撰津国東成郡鳴野村文書	274点
◇溝口純一氏寄贈資料 上衣	1着
上衣	1着
写真	5枚
讓渡命令書	2通
◇山田伊佐子氏寄贈資料 大正十三年大阪府東成郡天王寺村勢一覧	1冊

●美術

◇住友吉左衛門氏寄贈資料 蠟色蒔絵花鳥模様懐石具本膳	6組
蠟色蒔絵花鳥模様懐石具本膳	6組
蠟色蒔絵花鳥模様懐石具椀	35口
蠟色蒔絵花鳥模様懐石具二之膳	6組
蠟色蒔絵花鳥模様懐石具二之膳	6組
家紋付重箱大(台1・重箱5)	1具
家紋付重箱大(台1・重箱5)	1具
家紋付重箱(台1・重箱5)	1具
◇能勢眞理子氏寄贈資料 群鶴図屏風 森陽信筆	2点
◇湯浅哲夫氏・湯浅けい子氏寄贈資料 牡丹唐草図重箱を含む印判手資料	1,119点



神功皇后武内宿禰図

●民俗

◇大石楠妮氏寄贈予定資料 女性用草履	16点
女性用下駄	8点
◇木村薫氏寄贈資料 アジアと日本の風	268点



アジアの風

●芸能

◇株式会社つば善商店寄贈資料		文楽人形鬘見本 前髪括り下げ	1点
瀬戸物一式造り物絵葉書	13枚	文楽人形鬘見本 摺立て前髪括り下げ	1点
瀬戸物一式造り物焼付写真	21枚	文楽人形鬘見本 鉢割前髪根取括り下げ	1点
瀬戸物一式造り物写真切抜	15枚	文楽人形鬘見本 鉢割前髪茶筌	1点
瀬戸物一式造り物製作見積書	1枚	文楽人形鬘見本 がっそう前茶筌	1点
◇名越恵美子氏寄贈資料		文楽人形鬘見本 むしり武士風鬘	1点
文楽人形鬘見本 鉢物括り下げ	1点	文楽人形鬘見本 稚児鬘	1点
文楽人形鬘見本 公家鬘	1点	文楽人形鬘見本 がっそうとんぼ	1点
文楽人形鬘見本 鉢物前棒茶筌	1点	文楽人形鬘見本 蛇の目	1点
文楽人形鬘見本 王子力毛	1点	文楽人形鬘見本 前髪町人鬘	1点
文楽人形鬘見本 立根棒茶筌	1点	文楽人形鬘見本 蛤ぐる鬘奴	1点
文楽人形鬘見本 楊枝	1点	文楽人形鬘見本 五ツ括り	1点
文楽人形鬘見本 油付鍋の弦	1点	文楽人形鬘見本 おかっぱ青天付	1点
文楽人形鬘見本 百日括り下げ力毛	1点	文楽人形鬘見本 すっぽり鉢割れ振り分け袴縛り	1点
文楽人形鬘見本 揉上げ鬘菱皮	1点	文楽人形鬘見本 しゃぐま中振毛金二股角	1点
文楽人形鬘見本 摺立て前髪揉上鬘菱皮	1点	文楽人形鬘見本 じぞろおかっぱ金一角	1点
文楽人形鬘見本 櫛洗鬘百日切藁	1点	文楽人形鬘見本 下げ髪(御台ざし)	1点
文楽人形鬘見本 五十日片捻	1点	文楽人形鬘見本 姫十能鬘	1点
文楽人形鬘見本 振分前髪三組車鬘切藁	1点	文楽人形鬘見本 文金高島田	1点
文楽人形鬘見本 櫛洗鬘切藁	1点	文楽人形鬘見本 根取り下げ髪	1点
文楽人形鬘見本 油付櫛洗鬘天鷲絨こうさい生締	1点	文楽人形鬘見本 振分け前髪根取り下げ髪	1点
文楽人形鬘見本 摺立て前髪切藁	1点	文楽人形鬘見本 片外し	1点
文楽人形鬘見本 櫛洗摺立て前髪切藁	1点	文楽人形鬘見本 長舟	1点
文楽人形鬘見本 揉上げ鬘後捌き	1点	文楽人形鬘見本 釣舟	1点
文楽人形鬘見本 しゃぐま総捌き	1点	文楽人形鬘見本 前髪付切髪	1点
文楽人形鬘見本 むしり総捌き	1点	文楽人形鬘見本 切髪前帽子	1点
文楽人形鬘見本 大毬栗	1点	文楽人形鬘見本 勝山	1点
文楽人形鬘見本 括り下げ	1点	文楽人形鬘見本 割り島田(忌中島田)	1点
文楽人形鬘見本 むしり片捻	1点	文楽人形鬘見本 三ツ鬘巻き立て鬘	1点
文楽人形鬘見本 むしり振り分け	1点	文楽人形鬘見本 唐風二ツ鬘	1点
文楽人形鬘見本 むしり武士鬘	1点	文楽人形鬘見本 唐風一ツ鬘	1点
文楽人形鬘見本 中赤毛癖付鬘長目むしり片捻	1点	文楽人形鬘見本 銀杏返し鹿の子掛け	1点
文楽人形鬘見本 がりぶち鬘八方割	1点	文楽人形鬘見本 馬の尾	1点
文楽人形鬘見本 しゃぐま燕手蒲鉾本多	1点	文楽人形鬘見本 立兵庫(伊達兵庫)	1点
文楽人形鬘見本 瓦鬘本多	1点	文楽人形鬘見本 潰し島田(一本弁)	1点
文楽人形鬘見本 出島刎本多	1点	文楽人形鬘見本 割れしのぶ	1点
文楽人形鬘見本 天鷲絨こうさい蒲鉾本多	1点	文楽人形鬘見本 元禄風島田	1点
文楽人形鬘見本 蒲鉾本多	1点	文楽人形鬘見本 割鹿の子	1点
文楽人形鬘見本 油付燕手みより本多	1点	文楽人形鬘見本 お盥	1点
文楽人形鬘見本 前髪弾茶筌	1点	文楽人形鬘見本 先弁	1点
文楽人形鬘見本 鉢物茶筌	1点	文楽人形鬘見本 両輪	1点
文楽人形鬘見本 油付櫛洗鬘	1点	文楽人形鬘見本 島田くずし	1点
文楽人形鬘見本 切髪切藁	1点	文楽人形鬘見本 お染鬘	1点
文楽人形鬘見本 鉢物衿切り	1点	文楽人形鬘見本 結綿	1点
文楽人形鬘見本 しゃぐま鉢物短い茶筌	1点	文楽人形鬘見本 鴛鴦	1点
文楽人形鬘見本 しゃぐま椎茸	1点	文楽人形鬘見本 大丸鬘	1点
文楽人形鬘見本 大銀杏(猪名川)	1点	文楽人形鬘見本 仕掛の結綿(鬘捌きの後)	1点
文楽人形鬘見本 大銀杏(雲州)	1点	文楽人形鬘見本 後勝山	1点
文楽人形鬘見本 銀頭片捻	1点	文楽人形鬘見本 胡麻後勝山	1点
文楽人形鬘見本 慈姑	1点	文楽人形鬘見本 胡麻おぼこ	1点
文楽人形鬘見本 お祭付鬘片捻	1点	文楽人形鬘見本 すりはがし鬘猫の耳	1点
文楽人形鬘見本 袋付二つ折り町人鬘	1点	文楽人形鬘見本 白勝山	1点
文楽人形鬘見本 袋付二つ折元禄風町人鬘	1点	文楽人形鬘見本 がっそう小島田	1点
文楽人形鬘見本 眼鏡	1点	文楽人形鬘見本 針打ち島田	1点
文楽人形鬘見本 突っ込み	1点	文楽人形鬘見本 三方下がり蝶々鬘	1点
文楽人形鬘見本 唐人鬘顎鬘口髭	1点	文楽人形鬘見本 お煙草盆	1点
文楽人形鬘見本 唐人鬘	1点	文楽人形鬘見本 蒲鉾本多	1点
文楽人形鬘見本 胡麻油付燕手吉右衛門	1点	文楽人形鬘見本 不詳	1点
文楽人形鬘見本 胡麻羽二重植総捌き	1点	文楽人形鬘見本 不詳	1点
文楽人形鬘見本 中赤毛胡麻羽二重植括り下げ	1点	文楽人形鬘見本 櫛洗鬘百日切藁	1点
文楽人形鬘見本 白鉢物括り下げ	1点	鬘半製品(女方)	1点
文楽人形鬘見本 白鉢物衿切り	1点	鬘半製品(立役)	1点
文楽人形鬘見本 鉢物能風刷毛先じぞろ二つ折	1点	桃割張子型	2点
文楽人形鬘見本 前髪色茶筌	1点	桃割張子	2点
文楽人形鬘見本 前髪振分け	1点	鬘型	1点
文楽人形鬘見本 前髪しゃぐま総捌き	1点	鬘型 毛付	1点
		ナマコ	1点

羽二重植え見本	1点
台金	6点
蓑編み台	1点
結び台	1点
結び坊主	1点
かづら打ち台	1点
作業用タンス	1点
電気コンロ	1点
金槌	4点
カナキリ	3点
パンチ	2点
タイキリ	1点
ヤスリ	3点
コンパス	1点
ノミ	1点
釘起こし	1点
メウチ (千枚通し)	1点
鋏	1揃
和バサミ	1点
ナギナタ	1点
スジタテ	2点
馬櫛	1点
鬢櫛	3点
フリワケ	1点
折り棒 (鬚折り棒)	1点
ネズミ歯	2点
ハサミ	2点
元結 (黒・白)	1束
レース編み針の加工品 (羽二重植用具)	2本
ドライヤー	1点
整髪剤スプレー缶	1点
木蠟	1点
クジラのひげ	1点
ソエ毛	1点
しゃぐま (白・黒)	2束
住吉道子 文楽の人 (名越昭司肖像)	1点
名越昭司関係関係写真	6枚
トロフィー 第1回ニッセイ・バックステージ賞	1点
伝統文化ポーラ特賞賞状 平成元年7月14日	1面
旭日双光章授与証 平成16年4月29日	1枚

選定保存技術保持者認定証 平成14年7月8日	1枚
地域文化功労者表彰状 平成9年11月7日	1枚
第1回ニッセイ・バックステージ賞 平成7年11月29日	1枚
文楽協会感謝状 昭和63年	1枚
第16回国立劇場文楽特別賞賞状 平成9年	1枚
第1回なにわ活力賞表彰状 平成3年	1枚
大阪府教育委員会表彰状 昭和63年	1枚
大阪府知事表彰状 平成4年	1枚
ハワイ大学大学感謝状 1995年10月23日	1枚
園遊会招待状 平成17年3月	1枚
ワイドニュース 1971年2月25日号 少年写真新聞社	1枚
日本の伝統文化を支える人々 読売新聞社広告局	1枚
現代粧業界 第208号12・13頁 2000年2月	1枚
人形遣い図扇面 食満南北画 昭和16年3月	1面
文楽の人形 昭和51年 婦人画報社	1冊

館蔵品の修復

平成28年度に修復した資料は下に掲げた表の通りである(8件34点)。

名称	数量	修復概要
16ミリフィルム	2巻	テレシネによるコンテンツ保存
黒漆塗筋兜	1頭	前立てソケット欠損部補完
曙染地葉玉文振袖	1領	弱った糸の補強
薄墨地秋草に牛文小袖	1領	表面に生じたカビの除去
堀田コレクション	8枚	卷子装
堀田コレクション	18枚	マット装
薙刀 南紀真改作	1口	錆の研磨ならびに白鞘新調
矢立	2口	剥落片の再接着及び強化

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影

すでに撮影済みの文書の「野村貴次氏旧蔵天満友古町ほか古文書」のうち「天満友古町水帳」740駒分を、紙焼き・製本して資料の活用を図った。

(2) 写真撮影

・37点(美術工芸資料21点、建築資料14点、歴史資料2点)

(3) デジタルカメラ撮影

・堀田コレクション「魚図」ほか1,217カット

●図書の受入(平成29年3月31日現在)

今年は新たに3,721件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,814件、特別観覧献本67件、移管1件、購入804件、自主刊行物の登録35件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において観覧サービスを行っている。

特別観覧

平成28年度は撮影9件(14点)、実測1件(7点)、複製2件(2点)、観覧9件(139点)、印画2件(21点)、掲載・掲出159件(369点)、放映64件(154点)、デジタルオンデマンド8件(11点)の計253件(717点)の特別観覧があった。

※()内は資料点数。

館蔵資料の貸出し 平成28年度に他機関に貸出した資料数は下に掲げた表の通りである（17件155点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
島根県立古代出雲歴史博物館	1	企画展「出雲國風土記 －語り継がれる古代の出雲－」	平成28年 3月 1日～平成28年 5月31日
国立民族学博物館	1	特別展「見世物大博覧会」	平成28年 8月16日～平成28年12月15日
和歌山県立博物館	5	特別展「戦乱の世から泰平の世へ －16～17世紀の紀北・泉南地域－」	平成28年 8月20日～平成28年10月30日
堺市博物館	10	特別展「大寺さん－信仰のかたちをたどる－」	平成28年 8月28日～平成28年11月10日
福岡市博物館	4	特別展「釣道楽の世界－多彩なる水の趣味文化」	平成28年 9月 1日～平成28年11月15日
高岡市美術館	1	企画展「家持とその時代」	平成28年 9月10日～平成28年10月31日
石川県立歴史博物館	4	特別展「城下町金沢は大にぎわい」	平成28年 9月17日～平成28年11月18日
九州国立博物館	1	特別展「京都高山寺と明恵上人 －特別公開 鳥獣戯画」	平成28年 9月20日～平成28年11月20日
高槻市教育委員会	7	特別展「刀剣の精美～乱世の名刀と大坂新刀～」	平成28年 9月20日～平成28年12月20日
奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	2	特別展「蘇我氏を掘る」	平成28年 9月23日～平成28年12月 9日
池田市立歴史民俗資料館	11	特別展「内国博で地域振興!? －明治の夢、大大阪を拓く－」	平成28年 9月23日～平成28年12月11日
四條畷市立歴史民俗資料館	85	特別展「ヒスイのきらめき－北河内からみた交 流と縄文のまつり－」	平成28年 9月23日～平成29年 1月13日
大阪市立美術館	15	コレクション展「大阪藏鏡－中国古鏡の美」	平成28年10月12日～平成28年11月 4日
大谷大学博物館	1	特別展「戦国乱世と山科本願寺」	平成28年10月13日～平成28年11月28日
産経新聞大阪本社	1	「没後20年 司馬遼太郎展 21世紀"未来の街 角"で」	平成28年11月30日～平成29年 1月 5日
公益財団法人 西宮市大谷記念美術館	5	「西宮の狩野派 勝部如春斎 18世紀撰津の画 人列伝」	平成29年 3月15日～平成29年 5月21日
公益財団法人サントリー芸術財団 サントリー美術館	1	六本木開館10周年記念展「絵巻マニア列伝」	平成29年 3月29日～平成29年 5月14日

教育普及事業

シンポジウム等

◇シンポジウム 大阪市立大学・大阪市博物館協会包括連携協定企画「真田丸」の歴史学」（主催：公益財団法人大阪市博物館協会・大阪市立大学）

12月17日 210名 報告①「＜豊臣大坂＞と真田信繁（幸村）」仁木宏氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）、報告②「見えてきた豊臣期大坂城本丸」市川創氏（大阪府教育庁文化財保護課技師）、報告③「豊臣大坂城はどこまでわかっているか」岸本直文氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）、報告④「大坂城惣構（そうがまえ）の復原と真田丸」積山洋（大阪文化財研究所学芸員）、報告⑤「絵図・地形図からみた真田丸の位置と構造」松尾信裕、報告⑥「大坂冬の陣と真田丸の戦い」大澤研一、ディスカッション

講座・見学会

●なにわ歴史博講座

◇第1期「近世・近代の都市と文化」

5月20日「市川箱登羅日記を読む（続）－百年前の

大阪の芝居と劇場－」船越幹央 69名

5月27日「明治期大阪の水帳と町会」飯田直樹 63名
6月3日「昭和初期の「郷土建築座談会」からみた歴史的建造物とまちなみ」酒井一光 80名

6月10日「17世紀半ばの長堀と道頓堀 ～「長堀惣水帳」を読む～」八木滋 99名

◇第2期「古代史研究の最前線」

11月11日「日本都城の源流について－日中都城の比較から－」村元健一 96名

11月25日「新羅か、百済か－渡来系遺物から見た5、6世紀の国際関係－」寺井誠 162名

12月2日「古代宮殿における出御と「距離」」李陽浩 97名

◇第3期「大阪の文化財を護り伝えてきた日々」

3月10日「モノ・人・史料－事実を探求する愉しさ－」伊藤純 73名

3月24日「民俗文化財の調査と収集品の思い出」伊藤廣之 50名

●館長講演会

6月25日「難波屯倉と古代王権－難波長柄豊碕宮の前夜－」栄原永遠男 238名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー（大阪府教職員互助組合と共催）

10月2日「特別展「真田丸」の見どころ」木土博成 222名

●同志社女子大学講座「教育のまち 京都と大阪」（同志社女子大学と共催）

2月25日 160名

講演1「京都の小学校の歴史と現在」小針 誠氏（同志社女子大学準教授）

講演2「大阪における小学校学区制度の歴史」飯田直樹 博物館案内ツアー 船越幹央、木土博成

●古文書講座「古文書が語る大坂の人・モノ・情報」

①2月12日「古文書入門／株仲間に関する古文書①」八木滋 59名

②2月19日「株仲間に関する古文書②」島崎未央（大阪市立大学博士研究員） 57名

③2月26日「株仲間に関する古文書③」八木滋 59名

④3月5日「羽間コレクションの手紙①」木土博成 50名

⑤3月12日「羽間コレクションの手紙②」木土博成 56名

●漢文講座「激動の7世紀を史料で読む」

①1月14日「7世紀の東アジア情勢と史料について」村元健一 61名

②1月21日「『資治通鑑』などを読む」村元健一 59名

③1月28日「『日本書紀』などを読む」村元健一 56名

●考古学入門講座「なにわ考古学散歩 地形から見た大坂の陣の攻防」

①5月8日「鳴野（しぎの）・今福の戦いの跡をめぐる」大澤研一 32名

②5月15日「天王寺口の戦い」木土博成 29名

③5月22日「岡山から真田丸へ」松尾信裕 26名

④5月29日「惣構の東堀・南堀を歩く」積山洋（大阪文化財研究所学芸員） 26名

●館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」

⑩9月23日「庶民が楽しんだ近代大阪のさまざまな芝居」船越幹央 97名

⑪9月30日「大阪は博物館先進地?!—大阪の博物館と博物館—」加藤俊吾 64名

⑫10月7日「生人形とせともの祭り」澤井浩一（大阪市博物館協会学芸員） 56名

⑬2月10日「江戸時代初期の大坂の「町（ちょう）」」八木滋 126名

⑭2月17日「複都制と古代難波」村元健一 120名

⑮2月24日「なにわの油火」松本百合子 100名

⑯3月3日「大坂の狩野派絵画—江戸時代を中心に—」岩佐伸一 98名

●特別展プレ連続講座「渡来人いずこより—渡来人のふるさとをたずねて—」

①1月9日「朝鮮半島の自然環境」寺井誠 234名

②1月16日「華やかな仏教文化 百濟」寺井誠 234名

③1月23日「鉄の王国 加耶」寺井誠 225名

④1月30日「黄金の王国 新羅」寺井誠 218名

●なにわ歴博寄席2017「語り」と映画」（落語ファクトリーと共催）2月5日 204名

落語：「昭和任侠伝」「下町の散髪屋さん」桂三風氏（落語ファクトリー）

無声映画：「国士無双」「血煙高田馬場」「下町の理髪店」坂元頼光氏（弁士）

講座：「大正・昭和の映画事情」船越幹央

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説など

◇特別展「近代大阪職人図鑑—ものづくりのものがたり—」

・5月7日記念講演会「自在置物の魅力」村田理如氏（清水三年坂美術館館長） 93名

・展示解説5月8日 45名、6月4日 45名

◇2016年NHK大河ドラマ特別展「真田丸」

・プレ講座 7月22日 204名、7月29日 251名、8月5日 248名

・9月17日2016年NHK大河ドラマ特別展「真田丸」開催記念トークイベント 特別ゲスト：草刈正雄氏（NHK大河ドラマ「真田丸」真田昌幸役）、大澤研一 223名

・9月18日「真田幸村三変化」落語「真田小僧」桂壺之輔氏、講談「難波戦記」旭堂南海氏、新作能「真田幸村」山本章弘氏ほか 152名

・9月25日 講演会「歴史の信繁、文学・芸能の幸村」高橋圭一氏（大阪大谷大学教授） 141名

・9月28日 わいず倶楽部展示解説 59名

・10月16日「慶長19年12月における真田丸の攻防について—攻撃側の視点から—」長屋隆幸氏（名城大学講師） 190名

・学芸員による展示見どころ解説 9月24日 207名、10月10日 213名、10月22日 229名

・真田丸なりきり撮影会9月24日 37名、9月25日 49名、10月1日 20名、10月2日 52名、10月8日 35名、10月9日 76名、10月10日 67名

・10月30日「幸村が駆け抜けた大坂」講演会・講談会 旭堂小二三氏（講談師）、大澤研一 179名

◇特別企画展「都市大阪の起源をさぐる 難波宮前夜の王権と都市」

・7月30日講演会 南秀雄（大阪文化財研究所所長）、杉本厚典 220名

・展示解説7月23日 28名、8月7日 39名、8月27日 30名

◇特別企画展「コレクションの愉しみ—印判手の皿とアジアの風—」

・展示解説「印判手の皿」12月10日 25名、1月14日 16名

・展示解説「アジアの風」12月18日 17名、2月5日 18名

◇特集展示「平成24・25・26年度 大阪市の新指定文化財」

・4月24日記念講演会「庚申信仰とその美術」南谷恵敬氏（四天王寺執事・四天王寺大学客員教授）

84名

- ・展示解説 4月30日 10名、5月21日 16名、6月11日 15名

◇特集展示「郷土建築へのまなざしと日本建築協会」

- ・7月9日シンポジウム「大阪の建築100年をふりかえる」河田克博氏（名古屋工業大学教授）、坂本勝比古氏（神戸芸術工科大学名誉教授）、橋寺知子氏（関西大学准教授）、司会：酒井一光 152名
- ・展示解説 6月18日 28名、7月16日 18名

◇特集展示「蔵出し名品展2016」

- ・展示解説 8月20日 11名、9月3日 11名、9月10日 6名

◇特集展示「関西大学創立130周年記念 関西大学蔵 本山コレクションの精華」

- ・関西大学ミュージアム講座「本山コレクションの精華—本山彦一と大阪、関西大学—」10月9日「本山彦一と近代大阪の新聞事業と文化」船越幹央 77名、10月23日講演「本山コレクションの来歴—木村兼葭堂・神田孝平・本山彦一—」徳田誠志氏（宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官）討論「本山彦一と大阪、大阪毎日新聞、関西大学をめぐって」徳田誠志氏、船越幹央 進行：長谷洋一（関西大学文学部教授） 39名、11月6日「本山コレクション パルレー土器の由来」佐々木泰造氏（毎日新聞専門編集委員） 28名

- ・展示解説 10月15日 18名、10月29日 12名、11月12日 25名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2016」

- ・11月26日「大阪の歴史を掘る2016」講演会 小倉徹也（大阪文化財研究所 学芸員）、川端清司（大阪市立自然史博物館学芸課長） 40名
- ・展示解説 11月19日 22名、12月10日 15名、12月17日 12名

◇特集展示「名刀の面影—刀絵図と日本刀の美—」

- ・展示解説 1月15日 65名

◇特集展示「近代大阪と名望家」

- ・展示解説 3月4日 8名、3月11日 10名

◇常設展示7階近代都市の建設コーナー「村野藤吾と心斎橋プランタン」

- ・展示解説 4月17日 10名、5月3日 20名、6月18日 20名、6月25日 8名

●展示解説

特別展・特別企画展に伴う展示解説・みどころ解説

計12回、参加者合計912名

特集展示に伴う展示解説 計17回、参加者合計252名

常設展示に伴う展示解説 計162回、参加者合計1,387名

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

①和同開珎の拓本でしおりをつくろう

各月第2土曜日 午後2時～午後4時

4月9日43名、5月14日22名、6月11日39名、

7月9日39名、8月13日23名、9月10日31名、10月8日23名、11月12日28名、12月10日34名、1月14日31名、2月11日45名、3月11日22名

②手作りおもちゃで遊ぼう

毎月第1・3土曜日（1月は第3のみ）、全23回 1,691名

③綿くり・糸つむぎ体験

7月23日 計64名

④夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト体験」

8月10日13名、8月11日12名

⑤考古学者になってみよう

10月15日16名、10月22日17名、

11月12日16名、11月19日15名

⑥凧づくりと凧あげ 1月7日 22名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を、1日6回、定員40人で学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成28年度は合計18,948人の参加があった。また、開館日の12時30分～13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計12,154人が見学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーも用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心に、特集展示開催などに合わせて、「マニアックな雑誌たち」(3/30～5/16)、「いろいろな会社の社史」(5/18～7/4)、「夏休み子ども特集」(7/6～9/5)、「さまざまな日本の現代文化」(9/7～10/17)、「大阪検定2016」(10/19～12/5)、「冬の特集 大阪の古写真と笑い文化」(12/7～3/27)の6回の特集を企画し、関連書籍を配架した。28年度の入室者数は36,302名、書庫出納件数は185件、複写利用件数は859件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校教員を対象とする研修会への学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、大学からの博物館実習やインターンシップの受け入れをおこなった。

●学校職員の研修の受け入れ

◇新規採用社会体験研修 8月4・5・10日

大阪市立玉造小学校教諭 1名

◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）

対象：大阪市立学校園教職員 30名

8月8日「都市大阪の起源をさぐる」ほか

●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

- 6月10日 大阪市立桜宮中学校 2名 職業体験
7月8日 大阪市立天満中学校 22名 職業講話・見学
大阪府立芦間高校 4名 職場訪問
8月3日 城北学園中・高校歴史部 13名 学芸員講話
8月8日 大阪府立緑風冠高校 4名 職場訪問
8月13日 清教学園高校 1名 卒業研究への助言
10月6日 島根県立松江南高校 7名 職場訪問
10月12日 大阪府立高津高校 5名 職場訪問
10月21日 大阪府立今宮高校 8名 学芸員講話
11月11日 大阪市立天満中学校 職業講話（派遣）
11月10日・11日 大阪市立東中学校 3名 職業体験
11月17日・18日 大阪市立咲くやこの花中学校
2名 職業体験
2月2日・3日 大阪市立真住中学校 2名 職業体験
2月9日 寝屋川市立第九中学校 30名 学芸員講話
2月16・17日 大阪市立淀川中学校 2名 職業体験

●考古学体験教室

大阪文化財研究所と連携し、「考古学体験教室」を開催した。博物館を会場とし、「瓦の拓本」「土器の接合」「A R難波宮を使った遺跡見学」を行った。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。今年度は、11月9日・10日・11日・14日・15日の5日間で、12校693名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は12大学41名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月22日～26日 大阪市立大学14名、関西学院大学2名、同志社大学2名、大谷大学1名、桃山学院大学1名、帝塚山学院大学1名

◇8月29日～9月2日 大阪大学11名、京都橘大学1名、甲南女子大学1名、佛教大学2名、奈良大学4名、立命館大学1名

見学実習は、大阪成蹊大学・龍谷大学ほかから計210名（7校）を受け入れた。

●インターンシップの受け入れ

大阪市立大学からの依頼により、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」の支援を受けた「公立三大学 産業牽引型ドクター育成プログラム」に基づき博士研究員1名（日本近世史専攻）を長期インターンシップとして受け入れた（11月～3月、週3日）。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。平成28年度にボランティア登録者数は215名。活動日は休館日を除く毎日で307日間、のべ活動人数は4,807名であった。

●各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班

（活動者92名、延べ活動人数2,110名）

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーの解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーで再現された遺跡を使ったプログラムの案内や説明を行った。5月4日と11月3日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ8名、5月3日と11月4日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ10名が協力した。

◇スタンプラリー・ハンズオン班

（活動者123名 延べ活動人数2,697名）

10・9・7階の展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。また常設展示場内で体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。ハンズオンは以下の6種類である。

10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／投扇興に挑戦！（的に扇を投げて点数を競う遊び）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

●研修

6月7日・11日・14日「特別展 真田丸」の見学研修 158名

2月28日・3月5日 常設展示・避難経路等の研修 117名

3月7日・11日 遺跡探訪研修 47名

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で、2月28日・3月5日に懇談会を開催した。

●平成28年度ボランティアの次年度継続

平成28年度に活動したボランティアの任期は、平成29年3月末までの1年間であった。次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者が18名あり、197名を平成29年度の登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力のアピールするための事業を実施した。前年に引き続き（公財）大阪市博物館協会企画調整課による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座「大阪市立美術館と天王寺一美の殿堂の80年と地域の歴史―」

大阪市立美術館創立80周年を記念し、連携する各施設と大阪市立大学の研究者が、美術館と天王寺地域を多様な視点で紹介した。大阪市立難波市民学習センターにおいて11月4日から3週連続1日2講座（計6講座）開催し、当館からは11月4日に酒井一光が「大阪市立美術館の建築」と題して講演した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館協会が、所管する4つの博物館・美術館と大阪文化財研究所の情報を掲載したタブロイド版情報誌3・4号を発行し、当館も情報を掲載した。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、今年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪府教育センター附属高等学校、大阪教育大学（1月入会）が会員となり、年間利用者は順に354名、352名、94名、11名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に参加した。本協定に基づき、市大開講の博物館関連講義へ下記学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一
- 博物館資料保存論：豆谷浩之、寺井誠
- 博物館展示論：大澤研一、豆谷浩之、酒井一光、八木滋、杉本厚典

包括連携協定企画の下記2事業に学芸員を派遣した

- 12月17日シンポジウム「『真田丸』の歴史学」：「絵図・地形図からみた真田丸の位置と構造」松尾信裕、「大坂冬の陣と真田丸の戦い」大澤研一
- 10月24日博学連携講座「大坂（石山）本願寺はどこまでわかったか」：「大坂（石山）本願寺とは何者か」大澤研一

館独自の連携事業としては下記を実施した。

- 研究プロジェクトへの派遣：大阪市立大学平成28年度戦略的研究「豊臣大坂城山里曲輪の石垣復元」松尾信裕、大澤研一

●同志社女子大学との連携（共催事業）

- 2月25日同志社女子大学講座「教育のまち 京都と大阪」：講座「大阪における小学校学区制度の歴史」と博物館案内ツアー 飯田直樹

●関西大学との連携（共催事業）

- 10月5日～11月14日特集展示「関西大学創立130周年記念 関西大学蔵 本山コレクションの精華」

- 10月9・23日、11月6日関西大学ミュージアム講座「本山コレクションの精華―本山彦一と大阪、関西大学―」「本山彦一と近代大阪の新聞事業と文化」船越幹央

その他の連携事業

●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年も大念佛寺宝物館（平野区）と共催の「平野と大念佛寺展」を開催した。5月1～5日、入場者2,507名。

●大阪市交通局との連携

交通局「幸村が駆け抜けた大坂」PRキャンペーンと連携し、当館の特別展関連事業として10月30日に講演会・講演会を共催したほか、「決戦の地マップ」等の制作に協力した。

●大河ドラマ「真田丸」大阪推進協議会との連携

27年度に引き続き、大阪市博物館協会のもとで同協議会に参画し、構成団体の事業への協力を通じて当館の特別展広報につとめた。

●大阪「あさが来た」推進協議会との連携

27年度に引き続き、同協議会幹事会に参画し、「びっくりにPON！な大阪舞台地かいわいマップ」事業に協力した。

共催事業

●関西考古学の日2016（主催：「関西考古学の日」実行委員会）7月16日～11月30日

関西考古学の日記念講演会「本願寺と考古学の世界」10月15日 125名

事例報告「大坂本願寺」大澤研一ほか

●第32回歴史学入門講座（主催：第32回歴史学入門講座実行委員会）

7月24日「歴史学の可能性を開くために」福井憲彦氏（学習院大学教授）97名

●第10回難波宮フェスタ！2016（主催：NPO市民団体OSAKA ゆめネット）7月28日 1,027名

●難波宮講演会「難波のあかり―奈良時代の灯明と油―」松本百合子 76名

●NHK 地下石組み遺構特別公開 34名

●都市史学会2016年度大阪大会「社会的結合と都市空間」（主催：都市史学会大阪大会実行委員会）12月10・11日

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」では、平成26年度より、幹事会をはじめとした会員による自主運営に移行している。これにより当館は会の運営には直接関与しないものの、役員（副会長、顧問）への就任や幹事会での助言、見学会等への講師派遣（21頁参照）など、友の会との連携をおこなった。

なお、平成28年度の会員数は245名（家族会員を含む）である。

平成 28 年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	シンポジウム等	1	210
	講座・見学会その他	34	3,373
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	218	5,181
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	43	2,246
	石組み水路公開・AR 難波宮	4	190
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	1,842	18,948
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	2	31
	教育支援および職業体験	14	105
	考古学体験教室	12	693
	博物館実習・見学実習の受入れ	19	251
地域・その他連携事業	共催事業ほか	7	3,741
ボランティア関連事	研修	3	322
合計		2,199	34,598

文化庁補助金による多言語化の取り組み

平成 28 年度文化庁補助金事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」

当館、および公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・公益財団法人大阪市博物館協会・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪文化財研究所・大阪新美術館建設準備室による実行委員会を構成し、「大阪市博物館施設の国際発信強化事業」について応募して採択された。全体としては、他館・組織の事例調査や外国人アドバイザーによる施設点検を行い、各構成施設・団体が取り組むにあたっての参考とした。また、シンポジウムを開催してそれらの成果を公表・還元することに務めた。

当館の取り組みとしては、①外国語パンフレットの充実（フランス語・スペイン語・タイ語・アラビア語版の新規作成）、②展示案内にかかる多言語化の充実、③ボランティア活動にかかる多言語化の充実、④ホームページの多言語化の充実、を実施した。

広報宣伝活動

館の活動を広く PR し、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が 419 件、特集展示関係が 168 件、館全体に関する内容・その他が 105 件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定表（1 回）・英語版年間展示予定表（1 回）・なにわ歴博カレンダー（58～61 号）を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日

関西文化の日 2016 に参加し、11 月 19・20 日の 2 日間、常設展示の観覧料を無料とした。計 3,531 名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに 857,867 件（累計 5,252,127 件）、1 日平均 2,350 件のアクセスがあった（前年度比で約 230%）。また、1 日の最大接続件数は 10,641 件（9 月 18 日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴博ブログ」・「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

●Twitter の公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。ツイート数は 1,003 件、3 月 31 日現在フォロワー数は 2,982 名である。

刊行物

平成 28 年度は下記 3 件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要 第 15 号』

A4 判 279 頁、平成 29 年 3 月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集 13』

羽間文庫：器具篇一付、重要文化財指定品目録一』

A4判 46頁、平成29年3月

●『共同研究成果報告書11』

A4判 78頁、平成29年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては5テーマ、基礎研究においては2テーマを実施した。また平成28年度に行われた共同研究「近世都市大阪についての基礎的研究」の成果を『共同研究成果報告書』11に収録した。

各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇花月菴(田中家)史料の調査・研究

担当：八木滋、飯田直樹、酒井一光

外部研究員：吉田伸之(東京大学名誉教授)、逸身喜一郎(東京大学名誉教授)、塚田孝(大阪市立大学教授)

◇近世都市大阪についての基礎的研究

担当：豆谷浩之、松尾信裕、大澤研一、松本百合子、杉本厚典

外部研究員：清水和明、小田木富慈美(いずれも大阪文化財研究所)

◇中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究

担当：酒井一光

外部研究員：海老名熱実(国立近現代建築資料館)、林要次

◇難波宮の官衙遺構についての基礎的研究

担当：栄原永遠男、李陽浩、村元健一、寺井誠

外部研究員：積山洋(大阪文化財研究所)

◇鴻池家旧蔵名物裂についての研究

担当：中野朋子

外部研究員：佐藤留実(五島美術館主任学芸員)

●基礎研究

◇羽間文庫の古典籍の底本に関する調査研究

担当：木土博成

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究(B)研究代表者：飯田直樹

「部落」対策事業として始まった大阪府方面委員制度の全国化とその限界についての研究

◇基盤研究(C)研究代表者：岩佐伸一

絵画制作者としての公家の基礎的研究

－江戸時代中後期を中心に－

◇基盤研究(C)研究代表者：寺井誠

渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－

◇基盤研究(C)研究代表者：八木滋

17世紀大坂の都市開発についての研究

◇挑戦的萌芽研究 研究代表者：飯田直樹

大阪における個別町・町内会機能の変容に関する研究：新たな近代都市論の構築をめざす

◇挑戦的萌芽研究 研究代表者：杉本厚典

近世近代大阪の産業マップ作成

◇挑戦的萌芽研究 研究代表者：中野朋子

「天覧」でみる美術工芸振興についての研究

－天皇行幸は地方に何をもたらしたのか－

個人の調査研究活動

●栄原永遠男

・専攻分野

(1) 正倉院文書 (2) 東大寺史 (3) 古代難波研究

・著述

編著『正倉院文書の歴史学・国語学的研究―解移牒案を読み解く―』全374ページ、和泉書院、平成28年6月
共編著 栄原永遠男・佐藤信・吉川真司編『歴史のなかの東大寺(東大寺の新研究2)』全737ページ、法蔵館、平成29年3月

「天平初期の帳簿―解移牒符案の源流を求めて―」『正倉院文書の歴史学・国語学的研究―解移牒案を読み解く―』和泉書院、pp.339-368、平成28年6月

「紫香楽宮における写経の再検討」『歴史のなかの東大寺(東大寺の新研究2)』法蔵館、pp.559-597、平成29年3月

「難波屯倉と古代王権―難波長柄豊碕宮の前夜―」『大阪歴史博物館研究紀要』15、pp.19-32、平成29年3月

「書評『三重県史』「通史編 原始・古代」」『三重県史研究』32、pp.94～97、平成29年3月

・口頭発表

「難波宮はどこまで姿をあらわしたのか？」第139回六稜トークリレー、大阪府立北野高校六稜会館、平成28年4月2日

「東大寺新発見」奈良学セミナー奈良の歴史と文化、奈良市立中部公民館、平成28年5月29日

「難波屯倉と古代王権―難波長柄豊碕宮の前夜―(館長講演会3)」特別企画展「都市大阪の起源を探る―難波宮前夜の王権と都市―」プレイベント、大阪歴史博物館、平成28年6月25日

「地域の拠点となる博物館」平成28年度博物館長研修特別講演、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、平成28年7月13日

「伯耆国の国府官人と国分寺僧の生活」倉吉文化財協会文化財講演会、倉吉市成徳公民館、平成28年7月23日

「聖武天皇と華嚴経関係経典(東大寺の成立過程5)」華嚴宗教学研修会、東大寺本坊、平成28年9月14日

「難波長柄豊碕宮と大化改新」奈良歴史地理の会関東支部講演会、さいたま市民会館うらわ、平成28年12月14日

「恭仁宮と聖武天皇」木津の文化財と緑を守る会ふれ

あい文化講座、木津川市中央交流会館いずみホール、平成29年1月22日

「聖武天皇と伊勢」四日市市松原連合自治会講演会、松原連合自治会館、平成29年2月5日

• その他

「館長リレーインタビュー」Osaka Museums 03、公益財団法人大阪市博物館協会、平成28年8月31日

「東大寺・歴代管長に聞く 第3回森本公誠長老「法華堂の再発見と聖武天皇の想い」お相手」、東大寺金鐘ホール、平成28年10月1日

「国宝に会いに行くⅡ超ハイテク!法隆寺・五重塔と元興寺・五重小塔」出演、Eテレ、平成28年10月4日

「にっぽん!歴史鑑定 大仏建立!その真の目的とは?」出演、BS-TBS、平成28年10月10日

「日曜美術館 至宝が伝える天平の技術—第68回正倉院展—」出演、Eテレ、平成28年10月30日

●伊藤廣之

• 専攻分野

- (1) 日本民俗学
- (2) 環境民俗論、都市民俗論
- (3) 淀川における河川漁撈の研究、大阪の巨樹信仰の研究

• 著述

「天川村桁尾における交通と交易の伝承」『近畿民俗』第183号、近畿民俗学会、pp.29-33、平成29年3月

• 口頭発表

「玉出のダイガクと同祭礼図」近畿民俗学会6月例会、大阪歴史博物館、平成28年6月

●大澤研一

• 専攻分野

- (1) 日本中世史
- (2) 都市史、宗教史
- (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

• 著述

「真田丸について—「真田丸図」と構造の検討—」『二〇一六年 NHK 大河ドラマ特別展「真田丸」図録』、NHK・NHK プロモーション、pp.218-227、(松尾信裕と共著)、平成28年4月

「寺内町の構造と展開」金龍静・木越祐馨編『頭如一信長が恐れた「本願寺」宗主の実像』、宮帯出版社、pp.96-119、平成28年6月

「「石山」および「石山本願寺」呼称の成立過程の再検討—近世大坂の地誌・真宗寺院の由緒書を中心に—」『ヒストリア』260号、pp.12-24、平成29年2月

「絵図にみる近世堺の浜開発—「本願寺北御坊祠堂屋敷 北材木町浜・宿屋町浜・神明町浜 三町浜絵図」の紹介を兼ねて—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第204集[共同研究] 元禄『堺大絵図』に示された堺の都市構造に関する総合的研究』 pp.49-60、平成29年2月

「織田家ゆかりの町「柏原」」『近畿文化』808号、pp.1-3、平成29年3月

「近世融通念佛宗の成立と民衆」『大阪歴史博物館研究紀要』第14号、pp.12-31、平成29年3月

「朝鮮通信使と大阪」第1回「通信使のはじまり～その背景～」、第2回「通信使がやってきた～その概要～」、第3回「第1回目の通信使～一行が見た大坂の光景～」駐大阪韓国文化院 HP、平成28年11月、平成29年1月・2月

「上町に向かう道 大和田街道3～6、真田道1～4、阿倍野七坂をめぐる」『うえまち』No.133～140、144、すべて pp.4、平成28年4月～11月、平成29年3月

• 口頭発表

「歴史の転換点：大坂の陣」第53回日本伝熱シンポジウム、大阪国際会議場、平成28年5月

「大坂の陣と真田丸の攻防」えどはくカルチャー 特別展「真田丸」関連講座②、東京都江戸東京博物館、平成28年6月

「淀川の流れと守口」守口市民教養講座、守口市西部コミュニティセンター、平成28年7月

「真田信繁、大坂の陣の戦い」摂津市安威川公民館、平成28年10月

「大坂本願寺」関西考古学の日2016シンポジウム 本願寺と考古学の世界、大阪歴史博物館、平成28年10月

「真田丸」プラタモリ第52回、NHK、平成28年11月

「古代～中世大坂研究の進展—上町台地を中心に—」都市史学会2016大阪大会、大阪歴史博物館、平成28年12月

「大坂冬の陣と真田丸の戦い」博学連携講座 真田丸の歴史学、大阪歴史博物館、平成28年12月

「1614年大坂冬の陣と淀川—難攻不落の大坂城をめぐる攻防—」平成28年度市町村水道水質共同検査 水質講演会、ドーンセンター、平成29年1月

「真田丸の真実」郷土史講演会、大阪市立生野図書館、平成29年2月

「再考 冬の陣の大坂城包圍網戦」住民大学講座、平野区区画整理記念会館、平成29年3月

●松尾信裕

• 専攻分野

- (1) 日本考古学
- (2) 中近世都市遺跡の研究
- (3) 城下町をはじめとする中世から近世の都市の構造や形成過程の研究

• 著述

「真田丸について —「真田丸図」と構造の検討—」『二〇一六年 NHK 大河ドラマ特別展「真田丸」図録』、NHK・NHK プロモーション、pp.218-227、(大澤研一と共著)、平成28年4月

「近世初頭の都市における町人地の形態と内部構造」『国立歴史民俗博物館研究報告』第204号、pp.121-139、平成29年2月

「大坂城」『別冊歴史 REAL「名城歩き」徹底ガイド』洋泉社 MOOK、pp.56-63、平成29年3月

「城下町建設の手法—都市空間の造成を読み解く—」『近世城郭の考古学入門』、高志書院、pp.186-207、平成29年3月

『諸国古城之図』所収「摂津真田丸」図の再検討』『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、pp.53-66、平成29年3月

「近世における大坂市街地の拡大」『共同研究報告書』11 大阪歴史博物館、pp.4-13、平成29年3月

● 口頭発表

「大坂の陣と真田丸」大阪歴史博物館友の会講演会、大阪歴史博物館、平成28年5月

「勝山から真田丸を目指して — 徳川軍の進軍路をたどる —」大阪歴史博物館考古学入門講座、平成28年5月

「地形から知る豊臣時代の都市構造」高齢者福祉講座、薬業年金会館、平成28年5月

「茶臼山・御勝山そして真田丸」エルおおさか講座、大阪歴史博物館、平成28年7月

「大坂冬の陣と真田丸の姿を求めて」長浜城歴史博物館講座「北近江歴史大学」、木之下スティックホール、平成28年10月

「大阪」プラタモリ第53回、NHK、平成28年11月

「大坂冬の陣と真田丸」八尾市立八尾図書館講座、八尾市立青少年センター、平成28年11月

「絵図・地形図からみた真田丸の位置と構造」『博学連携 真田丸の歴史学』、大阪歴史博物館、平成28年12月

「真田丸の位置と構造」平野区画整理記念会館講座、平野区画整理記念会館、平成29年2月

● 豆谷浩之

● 専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学
- (2) 近世都市史
- (3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較 (口頭発表)

「豊臣期大坂城下の武家屋敷」エルおおさか歴史セミナー、平成28年8月

● 松本百合子

● 専攻分野

- (1) 考古学 (2) 仏教美術史、近世製油業の研究
- (3) 近世貿易陶磁の研究

● 著述

「大阪市内出土の近世貿易陶磁」『関西近世考古学研究』24、pp.27-42、平成28年12月

● 口頭発表

「難波のあかり — 奈良時代の灯明と油 —」第10回難波宮フェスタ、大阪歴史博物館、平成28年7月

「大坂出土の清朝陶磁」首届“港通天下”国际港口文化论坛“历史视野的港城互动”国际学术研讨会、宁波中国港口博物馆、平成28年10月

● 酒井一光

● 専攻分野

- (1) 建築史 (2) 歴史的建造物に関する研究
- (3) 近代建築、寺社建築

● 著述

「岡田家住宅」『タイルの本』101号、タイルの本編集室、

pp.28-31、平成28年5月

「日本のタイルと建築の歴史」村山閑編『美濃のモザイクタイル』、名古屋モザイク工業、pp.148-161、平成28年6月

「移情閣」『タイルの本』103号、タイルの本編集室、pp.44-47、平成28年7月

「びわ湖大津館 (旧琵琶湖ホテル)」『タイルの本』105号、タイルの本編集室、pp.30-33、平成28年9月

『国登録有形文化財 (建造物) 観心寺恩賜講堂総合調査報告書』 (分担執筆)、河内長野市教育委員会、pp.23-84、88-93、平成28年10月

「大阪とタイルの将来に向けて」『大阪タイル協同組合70周年記念誌』 pp.67-68、平成28年10月

「(インタビュー) 村野藤吾と近鉄」『第14回村野藤吾建築設計図展 村野藤吾とクライアント』 pp.166-169、京都工芸繊維大学美術工芸資料館 村野藤吾の設計研究会、平成29年3月

「武田五一と「建築標本」」『武田五一の建築標本 近代を語る材料とデザイン』、LIXILギャラリー、p.31、平成29年3月

『モダンエイジの建築 『建築と社会』を再読する』 (分担執筆)、一般社団法人日本建築協会、平成29年3月
『日本建築協会100年史 1917-2017』 (分担執筆)、一般社団法人日本建築協会、平成29年3月

「大阪市公会堂 (現・大阪市中央公会堂) の指名懸賞競技図案原図について」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、pp.109-140、平成29年3月

● 李陽浩

● 専攻分野

- (1) 建築史、都市史 (2) 古代東アジア建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

● 著述

「中期難波宮をめぐって：朱鳥火災後の整理作業と後期難波宮の造営過程」、『ヒストリア』第256号、大阪歴史学会、pp.1-19、平成28年6月

「古代日本の宮殿モデルと東アジア (記念シンポジウム 発掘成果が語る建築史研究)」、『建築史学』67号、建築史学会、pp.93-99、平成28年9月

● 口頭発表

「古代日本の宮殿モデルと東アジア」、建築史学会大会シンポジウム「発掘成果が語る建築史研究」、奈良文化財研究所平城宮資料館、平成28年4月16日

「近年における百済・新羅の遺跡調査ノート：都城、寺院を中心に」、都城制研究会、大阪歴史博物館、平成28年6月18日

● 加藤俊吾

● 専攻分野

- (1) 考古学・考古学史 (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鑄鏡研究

● 著述

「下郷コレクションの瓦経片」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、pp.33-67、平成29年3月

●村元健一

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 古代の日中交渉
- (3) 難波宮と中国都城との比較研究

・著述

『漢魏晋南北朝時代の都城と陵墓の研究』汲古書院、平成28年8月

「隋唐初の複都制—七世紀複都制解明の手掛かりとして」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、pp.1-17、平成29年3月

●飯田直樹

・専攻分野

- (1) 歴史学 (2) 日本近現代史
- (3) 都市大阪をフィールドにした地域社会構造史(近代都市史)と社会事業史

・著述

「宍粟が生んだ大関朝日嶽留蔵(宍粟歴史再発見第39回)」『広報しそ』138号、pp.24、平成28年9月

「相撲の周縁性」杉山昌男編『大相撲と日本刀』(テレビせとうちクリエイト)、pp.24-26、平成29年1月

「大阪における水帳の伝来と帳切の終焉」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、pp.33-52、平成29年3月

「伏屋町でみつかった相撲の板番付—相撲興行をささえた素人の相撲部屋—」『市史だより』100選(和泉市教育委員会)、pp.66、平成29年3月

・口頭発表

「民生委員創設秘(ヒ)ストーリー」御浜町民生委員児童委員研修会、大阪歴史博物館、平成28年6月15日

「『方面委員一件書類』からみた大阪府方面委員制度：方面幹事・釜ヶ崎・供養施米」科研費研究「行き倒れに関する国際的比較地域史研究」2016年度第1回研究例会、部落問題研究所、平成28年7月24日

「大阪府方面委員制度をささえた供養施米」大阪土佐堀クラブ11月例会、大阪YMCA会館、平成28年11月15日

「近代大阪研究の課題：鈴木良「地域支配構造の発展」をめぐって」科研費研究「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関する総合的研究」研究会、部落問題研究所、平成28年12月4日

●伊藤 純

・専攻分野

- (1) 日本の歴史

・著述

『第7回大阪の問題集—大阪検定公式出題・解説集』(分担執筆)、創元社、平成28年6月

「お祭り見てある記 第6回 生國魂神社 生國魂祭(夏祭り)」『たかきや倶楽部通信』43、高津宮社務所、平成28年7月、

「お祭り見てある記第7回 正蓮寺川施餓鬼」『たかきや倶楽部通信』44、高津宮社務所、平成28年10月

「お祭り見てある記 第8回 竹送り」『たかきや倶楽部通信』45、高津宮社務所、平成29年3月

「隠岐国駅鈴と光格天皇 —歴史の転換をもたらしたモノ—」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、平成29年3月

「関西プチ遺産」『産経新聞』朝刊連載、平成27年4月～平成29年3月

(4/9 土舞台 4/16 谷の清水 5/144 馬場先三体地藏 5/21 南禅寺水路閣 6/11 百済寺 6/18 梅の橋・梅川 7/9 友ヶ島 7/16 吉野川分水下測頭首工事 7/23 丹生都比売神社 9/10 鹿谷寺跡 9/17 清酒発祥の地 9/24 鎌八幡宮 10/15 関屋越え 10/22 通天閣 11/12 大斎原 11/19 北畠神社 12/10 十五社の楠 1/14 住吉大社反橋 1/21 竹送り 2/11 屯鶴峯 2/18 漢国神社白雉塚 3/11 小田井用水龍之渡井 3/18 垂園森 3/25 玉出の滝)

・その他

[大阪写真月間2016 写真家150人の一坪展]に「2015年 400年目の道頓堀」出品、富士フィルムフォトサロン大阪、平成28年6月3日～6月9日

●中野朋子

・専門分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 上代裂の文様研究、近世服飾史、結髪史
- (3) 近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究

・著述

「藪 明山“アートプロデューサー”論」、特別展『近代大阪職人図鑑—ものづくりのものがたり—』図録、pp.139-140、平成28年5月

・口頭発表

「最後の粋人 平瀬露香と平瀬家の道具蒐集」第3回 宍粟学講座、宍粟市教育委員会、平成28年8月27日

・調査活動

科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究 15K12830「「天覧」でみる美術工芸振興についての研究—天皇行幸は地方に何をもちたのか—」)により、東京、福岡、愛知のほか、滋賀、京都、兵庫などで調査を行った。

●岩佐伸一

・専攻分野

- (1) 美術史 (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方絵画

・口頭発表

「大坂の狩野派」大阪歴史博物館、平成29年3月3日

・調査活動

平成28年4月～平成29年3月 江戸時代の公家が制作した絵画調査(東京都立中央図書館ほか)

平成28年4月～平成29年3月 大坂狩野派の絵画調査(香川県個人ほか)

●内藤直子

・専攻分野

- (1) 美術史 (2) 刀装具の研究 (3) 近代大阪の工芸

● 著述

『装剣奇賞』と天明年間の根付師事情』『細密工芸の華 根付と提げ物』たばこと塩の博物館特別展図録、平成 28 年 4 月

『近代大阪のアルチザン－失われたピースを探して』『近代大阪職人（アルチザン）図鑑－ものづくりのものごと』大阪歴史博物館編著、青幻舎、平成 28 年 4 月

『大阪の彫金工・吉田至永－その生没年と事跡』『刀剣美術』717号、pp.24、公益財団法人日本美術刀剣保存協会、平成 28 年 10 月

『中谷省古－見世物・医学・美術を横断した近代大阪の奇才』『大阪歴史博物館研究紀要』第 15 号、pp.81-94、平成 29 年 3 月

● 口頭発表

『稲葉通龍著『装剣奇賞』にみる江戸時代の根付と刀装具』平成 28 年 5 月 15 日 東京・たばこと塩の博物館展示関連講演会

『大名家と刀装具』平成 29 年 3 月 5 日 徳島市立徳島城博物館「美術史アカデミー」講座

● 調査研究活動等

5 月 春日大社宝物 刀剣調査

8 月 渡辺美術館 甲冑調査

10 月 泉屋博古館 刀装具調査
京都国立博物館 刀装具関連文献調査

11 月 根津美術館 刀装具調査

12 月 根津美術館 刀装具調査

白鶴美術館 刀装具調査

1 月 京都国立博物館 刀装具関連文献調査

2 月 根津美術館 刀装具調査

● 木土博成

● 専攻分野

(1) 日本近世史 (2) 政治史 (3) 琉球使節

● 著述

『琉球使節の成立一幕・薩・琉関係史の視座から』『史林』99-4、pp.33-65、平成 28 年 7 月

『後水尾上皇・明正天皇の前で奏楽した琉球人』『沖縄文化研究』44、pp.159-179、平成 29 年 3 月

史料紹介「小笠原文庫蔵「琉球人來聘控」をめぐる」『大阪歴史博物館研究紀要』第 15 号、pp.101-120、平成 29 年 3 月

● 船越幹央

● 専攻分野

(1) 日本文化史
(2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究
(3) 大阪・京都を中心とした市民文化の研究

● 著述

『大阪の問題集 第 7 回』（共著）創元社、平成 28 年 6 月

『明治後期から大正初期の大阪における芝居の様相－庶民文化史の立場から－』『大阪歴史博物館研究紀要』第 15 号、pp.83-99、平成 29 年 3 月

● 口頭発表

『路線図のなかの大阪』シンポジウム「アート？デザイン？道楽？－大阪イマジュリイをもとめて」大正イマジュリイ学会、平成 28 年 7 月

● 寺井 誠

● 専攻分野

(1) 考古学

(2) 弥生～飛鳥時代の日本列島と朝鮮半島の交流史

(3) 日本列島出土の朝鮮半島系甌の故地解明

● 著述

『新たなものを生み出す渡来文化－「百済のようで百済でない竈」の紹介を通じて－』『河内の開発と渡来人－葦屋北遺跡の世界－』大阪府立狭山池博物館図録、pp.82-87、平成 28 年 10 月

● 口頭発表

『外交の窓口 難波』東大阪市埋蔵文化財センター歴史講演会、平成 28 年 10 月

● 調査活動

科学研究費補助金（基盤研究（C）16K03175「渡来文化の故地についての基礎的研究－新羅・加耶的要素を中心として－」）により岡山県、福井県、韓国などで資料調査を行った。

● 八木 滋

● 専攻分野

(1) 日本近世史 (2) 流通社会史、都市史

(3) 市場社会、両替商、都市開発

● 著述

『『歴史展示』に関するノート－『展示叙述』論の視点から－』『大阪歴史博物館研究紀要』第 15 号、pp.95-107、平成 29 年 3 月

● 口頭発表

『大坂の都市開発と町』、シンポジウム「都市の巨大化と民衆世界」、米国イェール大学、平成 29 年 3 月 10 日

● 杉本厚典

● 専門分野

(1) 日本考古学

(2) 弥生土器・土師器の編年研究、GIS 考古学

● 著述

『等高線図からの没入型 3D 地形モデルの作成』（江口泰弘氏と共同執筆）『日本情報考古学会講演論文集（第 37 回）』Vol.17 (2016)、pp.16-21、平成 28 年 10 月

『『難波丸』に書かれた商業・手工業生産からうかがえる近世大坂の町の特性』『日本情報考古学会講演論文集（第 38 回）』Vol.18 (2017)、pp.20-25、平成 29 年 3 月

『『難波丸』からうかがえる近世前期の大坂の産業の統計分析』『共同研究成果報告書』11、大阪歴史博物館、pp.14-24、平成 29 年 3 月

● 口頭発表

『古墳時代中期のものづくりと王権』（特別企画展「都市大阪の起源をさぐる 難波宮前夜の王権と都市」講演会）、大阪歴史博物館、平成 28 年 7 月 30 日

「等高線図からの没入型 3D 地形モデルの作成」(日本情報考古学会第 37 回大会)、土浦市立博物館(江口泰弘氏と共同発表)、平成 28 年 10 月 8 日

「手工業生産からみた上町台地の都市化」(「古墳時代における都市化の実証的比較研究－上町台地・博多湾岸・奈良盆地」第 1 回研究講演会『難波宮前の上町台地の都市化－とくに物資(木材等)の需給から』)、

大阪歴史博物館、平成 29 年 2 月 4 日

「『難波丸』に書かれた商業・手工業生産からうかがえる近世大坂の町の特性」(日本情報考古学会第 38 回大会)、鹿児島国際大学、平成 29 年 3 月 25 日

・文部科学省科学研究費補助金による研究
挑戦的萌芽研究 近世近代大阪の産業マップ作成 研究代表者：杉本厚典

平成 28 年度大阪歴史博物館入場者数

月	H28 年度 常設展					H28 年度 特別展					合計	その他 入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	17,623	1,408	19,031	5,713	24,744	355	21	376	509	885	25,629	6,378
5	17,906	844	18,750	8,143	26,893	3,802	355	4,157	8,069	12,226	39,119	7,164
6	19,603	590	20,193	8,015	28,208	4,744	219	4,963	6,625	11,588	39,796	6,798
7	25,106	898	26,004	4,318	30,322	0	0	0	0	0	30,322	8,015
8	25,742	1,207	26,949	5,286	32,235	0	0	0	0	0	32,235	6,800
9	20,096	710	20,806	6,902	27,708	12,855	525	13,380	5,202	18,582	46,290	6,729
10	21,405	1,462	22,867	15,362	38,229	29,417	1,154	30,571	18,817	49,388	87,617	8,870
11	15,077	888	15,965	16,843	32,808	10,435	439	10,874	5,228	16,102	48,910	8,371
12	14,068	583	14,651	7,273	21,924	0	0	0	0	0	21,924	5,737
1	19,191	1,002	20,193	5,370	25,563	0	0	0	0	0	25,563	6,362
2	19,587	841	20,428	6,222	26,650	0	0	0	0	0	26,650	6,453
3	16,094	683	16,777	4,675	21,452	0	0	0	0	0	21,452	7,168
合計	231,498	11,116	242,614	94,122	336,736	61,608	2,713	64,321	44,450	108,771	445,507	84,845
総合計											530,352	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
平成28年 2月11日～平成30年 3月31日	大阪検定委員会 実行委員会委員	柴原永遠男
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	国立歴史民俗博物館共同研究員	柴原永遠男
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	甲賀市水口岡山城跡調査委員会委員	松尾 信裕
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	公益財団法人和歌山県文化財センター調査委員会委員	松尾 信裕
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	松江市史専門部会(松江城部会) 専門委員	松尾 信裕
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	吹田市立博物館協議会委員	伊藤 廣之
平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員会	八木 滋
平成28年 4月13日	公益財団法人日本美術刀剣保存協会 平成 28 年度新作名刀審査会	内藤 直子
平成28年 7月28日～平成28年 7月29日	お守り刀展覧会運営委員会の派遣	内藤 直子
平成28年 7月 1日～平成30年 3月31日	多治見市モザイクタイルミュージアム収集品選定評価委員	酒井 一光
平成28年 8月26日	文化庁 文化財の買取協議委員	内藤 直子
平成28年11月18日	第 69 回刀剣研磨・外装技術発表会審査会への審査	内藤 直子
平成29年 1月25日	京都国立博物館寄贈評価に伴う委員	内藤 直子

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
4/ 9	喜連村史の会	豆谷 浩之
4/10	すみよし歴史案内人の会	村元 健一
4/12、13	大阪市 新採用者研修（前期）	船越 幹夫
4/29	（一社）大阪府建築士事務所協会	酒井 一光
4/29	（一社）大阪府建築士事務所協会	八木 滋
5/ 2	甲賀市水口岡山城跡調査委員会	松尾 信裕
5/ 6	NPO 法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
5/ 6、 7	松江城部会委員会	松尾 信裕
5/11	NPO 法人シニア自然大学校	村元 健一
5/14、15	たばこと塩の博物館	内藤 直子
5/16	大阪区民カレッジ	船越 幹夫
5/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
5/24	大阪府年金受給者協会	松尾 信裕
5/25	公益財団法人日本伝熱学会	大澤 研一
5/30	NPO 法人大阪観光ボランティアガイド協会	酒井 一光
6/11	大阪歴史博物館友の会	大澤 研一
6/12	すみよし歴史案内人の会	李 陽浩
6/15	御浜町民生委員児童委員協議会	飯田 直樹
6/15	一般社団法人日本建築協会	酒井 一光
6/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
6/25、26	松江城部会	松尾 信裕
6/27	甲賀市水口岡山城跡調査委員会	松尾 信裕
7/13	文部科学省生涯学習政策局	栄原永遠男
7/14	（一財）大阪労働協会	松尾 信裕
7/16	大阪市立中央図書館	八木 滋
7/16	喜連村史の会	豆谷 浩之
7/25	（公財）大阪国際交流センター	八木 滋
7/27	（公財）箕面市メイプル文化財団	船越 幹夫
8/ 5、 6	公益財団法人渡辺美術館	内藤 直子
8/ 7	松江城部会	松尾 信裕
8/20	喜連村史の会	豆谷 浩之
8/20、21	松江城部会	松尾 信裕
8/26	天理大学国際学部外国語学科	村元 健一
8/27	宍粟市教育委員会	中野 朋子
8/29	（一財）大阪労働協会	豆谷 浩之
9/ 9	NPO 法人大阪府高齢者大学校	飯田 直樹
9/11	株式会社近鉄百貨店上本町店	船越 幹夫
9/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
9/28	文化のとまり木 ― 翠曜塾 ―	船越 幹夫
10/ 2	長浜市長浜城歴史博物館	松尾 信裕
10/ 6	NHK制作局	松尾 信裕
10/ 7	摂津市立安威川公民館	大澤 研一
10/ 7	NHK制作局	大澤 研一
10/ 9	東大阪市教育委員会	寺井 誠
10/15	喜連村史の会	豆谷 浩之
10/18～20	寧波中国港口博物館	松本百合子
10/30	歴史街道推進協議会	酒井 一光
10/30	一般財団法人京都ユースホステル協会	船越 幹夫

日付	派遣先	担当者
10/31	和泉市史編さん調査執筆委員会	八木 滋
11/ 4	大阪市難波市民学習センター	酒井 一光
11/ 9	関西テレビ株式会社	八木 滋
11/11	毎日放送東京支社	大澤 研一
11/12	大阪市立阿倍野市民学習センター	八木 滋
11/19	喜連村史の会	豆谷 浩之
11/26	八尾市立八尾図書館	松尾 信裕
12/10	甲南女子大学	李 陽浩
12/17	喜連村史の会	豆谷 浩之
12/18	大阪市立大学	八木 滋
12/18	一般財団法人京都ユースホステル協会	松尾 信裕
1/12	大阪広域水道企業団	大澤 研一
1/15	三重テレビ放送番組製作会社(有)White	松本百合子
1/21	喜連村史の会	豆谷 浩之
1/24	尼崎市教育委員会	大澤 研一
1/28	枚方市教育委員会	木土 博成
2/ 4	大阪市立生野図書館	大澤 研一
2/16	徳島市立徳島城博物館	内藤 直子
2/17	公益財団法人平野区画整理記念会館	松尾 信裕
2/18	大阪歴史博物館友の会	船越 幹夫
2/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
2/18、19	平成 28 年度第 2 回松江城部会	松尾 信裕
2/20	和泉市教育委員会文化財振興課市史編さん室	八木 滋
2/23、24	東京大学埋蔵文化財調査室	松尾 信裕
3/10	公益財団法人平野区画整理記念会館	大澤 研一
3/12	近鉄グループホールディングス(株)(近畿文化会)	大澤 研一
3/16	公益財団法人和歌山県文化財センター	松尾 信裕
3/18	喜連村史の会	豆谷 浩之
3/26	西成区役所 市民協働課	木土 博成

視察

日付	来訪者	人数	対応者
7/20	サンフランシスコ親善大使	3	入館のみ
8/31	タイ王国文化省芸術局	8	中野 朋子
9/ 4	韓国国立扶餘博物館・ 韓国国立公州博物館	4	寺井 誠
9/ 9	メキシコ大使	5	豆谷 浩之
9/29	蔚山発展研究院	6	李 陽浩
12/24	中国江蘇省	23	伊藤 廣之
1/24	徳島県藍住町（町長・教育長他）	4	大澤研一・伊藤 純・李 陽浩
1/25	メルボルン親善大使(大阪市姉妹都市)	2	入館のみ

大学での非常勤講師派遣

大学名	科目等	担当者
大阪大学	博物館学（概論）	大澤 研一
同志社大学	文化史基礎演習	船越 幹夫
大阪芸術大学	服飾史	中野 朋子

条例と規則

○大阪歴史博物館条例

平成13年4月1日

条例第60号

大阪歴史博物館条例を公布する。

大阪歴史博物館条例

(設置)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前4丁目に設置する。

(目的)

第2条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(資料の寄贈又は寄託)

第4条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

(休館日)

第5条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
 - (2) 12月28日から翌年1月4日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
- 3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第6条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第7条 別表第1（省略）に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき

(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第10条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第11条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(特別研究の許可)

第12条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出の許可)

第13条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(利用料金)

第14条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額
- (3) 施設使用料 別表第1（省略）に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額）

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増し

の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前3項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。

8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

(1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき

(2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき

(3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

(1) 破産者が復権を得ないもの

(2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの

(3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 第1号に該当する者

イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

(1) 住民の平等な利用が確保されること

(2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること

(3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること

(4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

(1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること

(2) 建物及び設備の維持保全に関すること

(3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則（平成13年11月3日施行、告示第1155号）抄

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2 大阪市立博物館条例（昭和35年大阪市条例第35号）は、廃止する。

附則（平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号）

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定（第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

附則（平成19年12月28日条例第106号）

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成21年11月26日条例第129号）

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例（以下「改正後の条例」という。）第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通 観覧料	団体（20人 以上）観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教)規則第5号

大阪歴史博物館規則（平成13年大阪市教育委員会規則第34号）を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例（平成13年大阪市条例第60号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管

理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表（省略）のとおりとする。

（指定申請の方法）

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書
- (3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。
- (4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類
- (6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類
- (7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類
- (8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書
- (9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第8条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。

（施行の細目）

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。附則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第26号）は、廃止する。

附則（平成22年3月26日（教）規則第11号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

運営組織

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

組織

館長	栄原 永遠男
副館長兼学芸課長	伊藤廣之
総務課 課長	大対好行
課長代理	金澤宏和
係 員	川端優子 安田 縁 山本幸恵 鈴木得記子 古賀寿生 三宅美智雄
企画広報課 課長	大澤研一
企画広報係 係長	松本百合子
主任学芸員	酒井一光
主任学芸員	李 陽浩
係 員	柴田晃子
情報資料係 係長	加藤俊吾
係 員	村元健一 飯田直樹 小林佳美 宮下愛子

研究主幹	松尾信裕
学芸課 課長	伊藤廣之
課長代理兼学芸第2係長	豆谷浩之
学芸第1係 係長	伊藤 純
係 員	中野朋子 岩佐伸一
学芸第2係 主任学芸員	内藤直子
係 員	木土博成 勝本千賀
学芸第3係 係長	船越幹央
主任学芸員	寺井 誠
主任学芸員	八木 滋
係 員	杉本厚典 柴田善美

人事

新規採用（平成28年4月1日）	
総務課 課長代理	金澤宏和
係 員	三宅美智雄
退職（平成29年3月31日）	
総務課 課長代理	金澤宏和
副館長兼学芸課長	伊藤廣之
学芸課学芸第1係長	伊藤 純

退職学芸員の紹介

伊藤廣之

■履歴

1956年 8月 京都府生まれ
1979年 3月 佛教大学社会学部社会学科卒業
1980年 10月 大阪市立博物館学芸員
1993年 4月 大阪市立博物館主任学芸員
2000年 4月 大阪市立博物館学芸課長代理
2001年 11月 大阪歴史博物館学芸課長
2014年 4月 大阪歴史博物館副館長兼務
2015年 4月 大阪市博物館協会統括学芸監兼務
2017年 3月 博士（文学）佛教大学

■おもな展示担当

1983年 7月～ 8月 特別展「北前船と大阪」
1988年 10月～ 11月 特別展「山に生きた人びと」
1990年 9月～ 11月 特別展「花の民俗」
1995年 3月～ 4月 特別展「歴史のなかの淀川」
2009年 1月～ 3月 特別企画展「お菓子の博物館」
2013年 6月～ 8月 特集展示「大阪の凧」
2015年 8月～ 10月 特集展示「看板の世界」
2016年 12月～ 2017年 2月 特別企画展「コレクションの愉しみ アジアの凧」

■おもな著書（共著）

「大師講と霜月粥」伊藤唯真編『仏教民俗学大系第6巻 仏教年中行事』、名著出版、1986年
「山の世界」鳥越皓之編『民俗学を学ぶ人のために』世界思想社、1989年
「淀川の川漁師からみた自然」鳥越皓之編『試みとしての環境民俗学—琵琶湖のフィールドから—』雄山閣出版、1994年
「まちの景観—大阪の都市開発と巨木—」鳥越皓之編『講座人間と環境 第4巻 景観の創造—民俗学からのアプローチ—』昭和堂、1999年
「奥吉野の山村と生業」八木透編『フィールドから学ぶ民俗学—関西の地域と伝承—』昭和堂、2000年
「民俗展示の方法と問題点」赤田光男ほか編『講座日本の民俗学 第11巻 民俗学案内』雄山閣、2004年
「風景のフォークロア—街角に残る巨木と都市の記憶—」西村幸夫ほか編『風景の思想』学芸出版社、2012年
「なりわいと環境—川と人の民俗誌—」八木透編『新・民俗学を学ぶ—現代を知るために—』昭和堂、2013年

■おもな論文

「早川孝太郎における民俗学方法論の成立と展開—生活事象の相互連関分析を中心に—」『大阪市立博物館研究紀要』第14冊、1982年3月、1～38頁
「アチックの民具研究と早川孝太郎」『大阪市立博物館研究紀要』第19冊、1987年3月、14～34頁
「下石津における畑作農具の伝統と変容」『近畿民具』第10輯、近畿民具学会、1987年10月、13～22頁
「早川孝太郎の行事伝承論」『大阪市立博物館研究紀要』

第23冊、1991年3月、37～56頁

「篠原の猟師と猟犬」『大阪市立博物館研究紀要』第26冊、1993年3月、21～34頁

「淀川河口における漁師の漁撈活動と自然認識」『大阪市立博物館研究紀要』第30冊、1998年3月、39～48頁

「淀川における川漁師の漁撈活動」『近畿民俗』177号、近畿民俗学会、2009年4月、27～45頁

「大正・昭和の郷土趣味と民俗研究」『近畿民俗』178・179合併号、2011年1月、1～18頁

「河川漁撈における川漁師の漁場をめぐる慣習と資源利用—漁場の個人占有と秘匿をめぐる—」『大阪歴史博物館研究紀要』第9号、2011年3月、19～30頁

「西横堀における陶器祭と造り物—同業街の祭りと社会—」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、2012年3月、1～18頁

「環境民俗学の視点と河川漁撈研究」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、2015年2月、49～60頁

「淀川における川漁師の自然観」『大阪歴史博物館研究紀要』第14号、2016年3月、21～32頁

「宮本常一の環境論」『近畿民俗』第182号、近畿民俗学会、2016年3月、39～46頁

■応嘱

1979年度～1983年度 京都府・奈良県・大阪府、民俗文化財分布調査調査員

1987年度 大阪府盆行事調査調査員

1988年度～1989年度 国立歴史民俗博物館「人の一生に関する民俗資料の調査」調査員

1989年度～1990年度 大阪府諸職関係民俗文化財調査調査員

1995年 関西学院大学文学部「学際教養C 山と日本人」(前期) 非常勤講師

1998年度 国立歴史民俗博物館「博物館資料(葬送墓制調査)」調査委員

2013年 11月～ 吹田市立博物館協議会委員

2015年 7月～ 2016年 3月 人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究事業実績評価委員会委員

2015年 4月～ 近畿民俗学会会長

2015年 10月～ 日本民俗学会評議員

■科学研究費補助金による調査研究

1986年度奨励研究A「若狭湾沿岸漁村における年齢階梯組織の調査研究」(研究代表者)

1990年度奨励研究A「奥吉野における山地住民の自然認識とその変容」(研究代表者)

1996年度～1997年度基盤研究C「水にかかわる信仰の儀礼と表現様式の総合的研究」研究代表者・大阪市立博物館・前田洋子(分担研究者)

2002年度～2005年度特定領域研究A06.内外特定コレクションの総合的調査研究「19世紀における日本在外博物学・民族学標本コレクションの実態調査」研究代表者・国立民族学博物館・近藤雅樹(研究協力者)

伊藤 純

■履歴

- 1956年10月 東京亀有生まれ
1980年3月 大阪市立大学文学部(2部)卒業
1982年7月 財団法人大阪市文化財協会調査員
1997年7月 大阪市教育委員会文化財保護課主任学芸員
2005年4月 大阪歴史博物館主任学芸員

■おもな展示担当

- 2008年7月～9月 特別展「大阪府・大阪市指定文化財展—大阪の祈り—さまざまな美と形—」
2010年4月～6月 特別展「昭和のおもちゃとマンガの世界—北原照久—大コレクション展—」
2012年1月～2月 特別展「没後50年・日本民芸館開館75周年—柳宗悦展—暮らしへの眼差し—」

■おもな著述(2005年4月以降)

- 橋爪節也編『モダン道頓堀探検』(共著)創元社、2005年4月
「石上神宮鉄盾観察記—適切な展示によって判ったこと—」『大阪歴史博物館研究紀要』第4号、2005年4月
「小林行雄の弥生土器研究」『小林行雄考古学選集』1真陽社、2005年12月(都出比呂志と共著)
「業界言葉と一般社会—辞書での〈弥生〉の採用をめぐる—」『弥生文化博物館研究報告』6、2006年3月
「美濃焼に対する評価の変遷」『美濃の古陶』(美濃古窯研究会会報9)、美濃古窯研究会、2006年6月
「石川年足墓誌の発見と情報の伝播—関連史料の紹介を兼ねて—」『大阪歴史博物館研究紀要』第5号、2006年10月
「近代大阪における歴史の創造—仁徳天皇千五百年祭をめぐる—」橋爪節也編『大大阪イメージ』創元社、2007年12月
「奈良大和の史蹟案内書に見る考古学—記述の変化と古墳・神武陵を中心に—」『研究紀要』13、由良大和古代研究協会、2008年3月
「大阪から生駒宝山寺へ—参詣道の変遷—」『大阪府・大阪市指定文化財展—大阪の祈り—さまざまな美と形—』大阪歴史博物館、2008年7月
「明治天皇陵の埴輪をめぐる—」『古代学研究』180(森浩—先生傘寿記念論文集)、2008年11月
『森琴石と歩く大阪』共編著、東方出版、2009年8月
『大阪の橋ものがたり』(共著)創元社、2010年4月
「唐本御影の伝来過程をめぐる—背負わされた法隆寺での役割—」武田佐知子編『太子信仰と天神信仰—信仰と表現の位相—』思文閣出版、2010年4月
「亀有大谷田物語—昭和30代の私—」『足立史談』507～523号、足立区教育委員会、2010年5月～2011年9月まで17回連載、2010年5月
「和辻哲郎と考古学者—『日本古代文化』にあらわれた論説の変化と考古学者—」『坪井清足先生卒寿記念論集

—埋文行政と研究のはざまで—』坪井清足先生の卒寿をお祝いする会、2010年11月

「大阪における火口商の一齣—伊勢谷家絵画資料2点—」『大阪歴史博物館研究紀要』第9号、2011年3月
「李王家博物館から柳宗悦の民芸運動—李王家博物館に学んだ人々—」『柳宗悦展—暮らしへの眼差し—』NHKプロモーション、2011年9月

「近世大坂の瘡癩対策—『神仏靈験記図会』を中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、2012年9月

「法隆寺開帳に関する—史料—中西文庫『斑鳩ミヤげ』について—」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、2013年2月

「正倉院宝物盗難事件に関する—史料—大阪府立中之島図書館蔵『南都東大寺宝物』の紹介—」7『大阪歴史博物館研究紀要』第12号、2014年2月

「天平章についての臆説—『天平十二年八月日』に込められた意味—」武田佐知子編『交錯する知—衣装・信仰・女性—』思文閣出版、2014年3月

「幻の難波宮から実在の難波宮に—山根徳太郎の執念と情熱—」『大阪遺産—難波宮—』大阪歴史博物館、2014年6月

「難波宮址初期発掘史をふりかえる—理系分野との連携・遺構の認識などを中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、2015年2月

「近世河内・大坂地域における善光寺の布教活動」『大阪歴史博物館研究紀要』第14号、2016年3月

「お祭り見てある記第7回—正蓮寺川施餓鬼—」『たかきや倶楽部通信』44、高津宮社務所、2014年10月

「浪花八百八橋物語—駅名となった橋—第2回—四ツ橋—」『保険医新聞』2017年1月1日(1255号)、大阪府歯科保険医師会、2017年1月

「隠岐国駅鈴と光格天皇—歴史の転換をもたらしたモノ—」『大阪歴史博物館研究紀要』第15号、2017年3月

「お祭り見てある記第8回—竹送り—」『たかきや倶楽部通信』45、高津宮社務所、2017年3月

『歴史探索のおもしろさ—近世の人々の歴史観—』和泉書院、2017年4月

■応嘱

香芝市文化財保護審議会委員

2011年8月1日～現在に至る

大阪歴史博物館年報 平成28年度

平成 29 年 6 月 16 日 発行©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 株式会社中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun.2017